友の会のページ

「お元気ですか」改題No.219
編集＝代々木病院友の会
☎03（5411）9589
FAX03（3404）3421

会費納入のご案内

会費納入は、郵便振替が便利です。
会費は年間2,000円です。
口座番号　00190－7－71019
加入者名　代々木病院友の会

ロクノヰ

各地で花見！花見！

鼻見！

お楽しみ会を御苑で

4月のお楽しみ会は例年のように新宿御苑でお花見会を15日、患者さん29人の参加でおこないました。3回の実行委員会で担当者の配置、プログラムなどを話し合い、当日を迎えました。風が強く、肌寒い日でしたので、車椅子の患者さんには膝掛け毛布などでしっかり風よけをして御苑に向かいました。御苑の中は予想に反し、風も弱まり、陽もさして良い日和になりました。樹齢100年以上の桜の木が1500本もある御苑は、八重桜が満開でした。車椅子の手に届くほどに美しい桜がしだれ、患者さんは大喜びでした。まず、4月生まれの方2人のお誕生日会からはじまり「あと20年長生きする」と…歌をうたい、おやつを頂き、想いかけずお花見ができ、患者さんの喜びは大きかったようです。代々木病院だからこそ、この様に思いやりのある企画ができるのでしょう。政治は悪くなる一方、治安も悪くなり、安心して暮せない昨今です。このお花見は心をいやしてくれる、生きていてよかったと思う幸せな一日でした。

幹事　阿久澤　信子

世田谷でも「花の宴」

昨年の農大通り診療所がお花見をしているのを見て、楽しそうだったので、今年初めて参加しました。4月2日、天気の具合から公園で満開の桜を観て、それから公園そばの友の会事務所に移っての「花の宴」となりました。つねづね診療所や友の会の話しを聞きたいと思っていましたので、今日の話し（健診のこと、診療報酬の引き下げ、友の会活動など）が聞けてよかったと思います。会員さんの手料理をごちそうになり、楽しいひとときを過ごしました。ありがとうございました。

（世田谷在住　M子）

4月8日（土）、雨のため急遽診療所の3階で行われた新宿の花見。参加者40人でした

90歳の笑顔も桜のよう

はたがや協立診療所
老木の花咲く力ありにけり

小澤満男作

診療所のすぐそばの新道公園、天気は上々、桜は満開とあって、早くもブルーシートが！危機感をいだいたあゆむ会役員が、早速駆けつけめでたく一等地をゲット。おかげで74余人、大きな桜の木下に集いお花見。90歳の笑顔も桜に負けじとはちきれて。

はたがや協立診療所　杉本　育子

◇　◇　◇

昨年10月にオープンし、半年が過ぎた桜丘ケアセンターで3月末「桜丘ケアセンターまつり」をおこないました。デイサービス「さくら草」利用者さんの習字、絵手紙、きり絵などの作品展や、地元サークルのフラダンス、可愛い小さな子のバレーや大正琴など盛りだくさんの文化行事がとり行われました。利用者さんとその家族、近隣住民が一体となった〝まつり〟になりました。

幹事　亀岡　良夫

待合室

草の根「九条の会」
語りべとなって

「日本の民話」の中に、関東地方の伝えで「地獄めぐり」というお話があります。

お話は、軽業師と歯医者そして山伏の3人が道に迷い地獄に行く羽目におちいります。しかし、各々の職業を活かして閻魔大王を懲らしめて戻ってきます。そして口々に「地獄だってたいしたことね」すると、この民話を聞いている人たちが大笑いをします。すかさず、私は「憲法九条が改悪されたら、また生き地獄です」と付け加えます。

私事ですが、私の姉は東京大空襲の時、嫁ぎ先で焼夷弾が落ち、ふすまが飛んできたと思ったら、隣の部屋の大切な日本人形がめらめら燃えていたそうです。それをぼんやりながめていて、それから、どう逃げたか記憶のないまま街を歩いていたら火の海となり、真っ赤に燃えた家々の柱が倒れてきて、まるで地獄の中をさまよっているようだったと今でも話します。イラクでは、いまでも地獄の中に生きている人たちがいます。日本は憲法九条があるかぎり、戦争をしない平和な国でいられるのだと声を武器にして語り続けたいと思います。

新宿在住　小泉　洋子

左＝語り部の小泉さん

今年の桜は、どこでご覧になりましたか。

病院の中で働いていると、明るい日差しの中で四季を感じることに疎くなります。でも、津田英語学校前の桜には、朝、夜の姿に毎年感動させられます。そして、千駄ヶ谷駅から病院までのイチョウ並木の四季も私の楽しみです。準夜勤からの帰り道、黄金に色づいたイチョウ並木の明るさには、眼を見張るものがあります。

病院から、訪問看護ステーションに異動になり、毎日四季を肌で感じること出来るようになりました。青山墓地の満開の桜の下を自転車で通るのは、本当に気持がいいです。40度を超える夏の炎天下の訪問は、熱中症と脱水症になりそうになりながら、もうろうとする意識の中、自動販売機前で一気飲みをし命をつなぎました。小雪のちらついてきた訪問では、一件終了後に見た一面の銀世界に感動したのもつかのま、雪で車輪がとられて難儀をしました。

今、表参道は、表参道ヒルズの影響で黒山の人です。その裏には、まだまだ古いアパートがあります。港区には、都営住宅がたくさんあります。エレベータがないところもあります。こした中に高齢者世帯が沢山暮しています。地域で働く中で、初めて患者様の生活に近づくことができるようになったと感じています。病院があるから、地域のなかで、患者様を支える事ができることを改めて感じています。また、病院にたいする率直な生の声を聞けるのも地域です。「友の会に入っているのよ」と声をかけてくださると本当にありがたい気持になります。素直な意見も伺えます。また「いい病院だよ、いってごらんよ、と言える病院であってほしい、地域の開業医さんからも信頼される病院であってほしい、地域のケアマネージャーさんから頼りにされる病院であってほしい…」。沢山期待を肌で感じています。

病院への期待を肌で感じて

一年半ぶりに病院に戻り、短い期間でしたが、病院のめまぐるしい状況も改めて実感できました。2006年4月の診療報酬改定は、私たちが地域の病院としてどのような選択をしていくかが大きく問われるものです。切れ目のない介護と医療を提供できる私たちの存在意義が試されることとなるでしょう。また地域に戻り、改めて、病院を見守っていきたいと思います。

青山訪問看護ステーション　松永　薫

社会保障セミナーの感想から

4月1日には憲法25条を学ぶ、という講題で（新宿健康と生活を守る会）から田中光春氏を招いて、生活保護を求める権利についてと社会保険庁で生活保護者を切っていく現状について自身の肺病経験から生活保護をもとめ、またその内容を充実したものへ変えてきた運動論をお聞きしました。大変わかりやすく好評でした。17人が参加。

4月15日には医療改悪について清田事務次長から話して頂きました。混合診療は明らかに保険を切り崩して自費で医療を受けることが当たり前とすることで格差をつけ高額な医療費を支払えないひとはきりすてになるようなことが予想され、医療機関も今までと同じにやっていたら大赤字になり立ちゆかなくなる内容ということで、かつてない大改悪ということが知らされました。国の財政の使い方をただすことが求められます。

代々木歯科　木村和正

渋谷区・金内福子